



横田小だより



平成29年7月21日発行
高岡市立横田小学校

心に残る豊かな体験を

校長 岡 はるみ

五木寛之氏の「選ぶ力」という本の中に「私たちの毎日は、ほとんど『選ぶ』ことの連続によって成り立っている。」という一文があります。確かに朝、目覚まし時計が鳴ってすぐ起きようか、もう少し寝ていようかなど、無意識に判断し瞬間的に選んでいることがたくさんあります。また、誕生日のプレゼントは何がいいかなど、多くの選択肢の中からじっくり考えて決断するときもあります。成長するにつれて自分で選んで行動することが多くなってもきます。人は生きていくためにどうするかを選択を、流れるように繰り返しながら暮らしています。

これからの長い夏休みの間にも、子供たち自身で「選ぶ」場面が多くあると思います。こんなことを言ってもいいのか、友達に誘われたけれどどうしようかなど、多くの「選ぶ」機会があります。自分で決めたことには責任をもたなければいけないものですが、まだまだ経験の浅い子供たちです。保護者の皆様には、子供たちのそばで、子供たちの選択を見守りながら、よいことは褒め、必要に応じてアドバイスをお願いいたします。



また、この夏休みに、何か自分の得意なことや好きなことに熱中したり、夏休みにしかできない心に残る豊かな体験をしたりしてほしいと思います。

7月19日に15歳となった藤井総太さんは、幼いときに将棋と出会い、将棋が好きになり、熱心に将棋の勉強をし何時間も粘り強い対局を重ね、現在の藤井総太四段があります。

8月末になって夏休みを振り返ったとき、今年の夏休みにはこんなことができるようになった、こんないい思い出ができたという体験をしてほしいです。私も読みたいと思って買っている本がたくさんあるので、まずは、読書から始めたいと思っています。

日本人は時や場で気持ちを切り替えることを大切にしてきました。正月やお盆などの年中行事、授業の初めと終わりの「礼」。切り替えることで集中力を高め、強い自分や新たな自分を引き出そうとしてきました。

夏休み中の豊かな体験をもとに、新たな気持ちで2学期を迎えましょう。

社会に学ぶ「14歳の挑戦」

7月10日（月）から14日（金）まで、高岡西部中学校から4名の中学2年生が、「14歳の挑戦」に来ていました。その間、全学年の授業に参加してもらったり、給食を一緒に食べたり、遊んだり…と、小学校の仕事をたくさん経験してもらいました。

<4人の中学生からのメッセージです。>

- ・ 休み時間など、外で元気に遊んだりたくさん話したりしてくれて横田小学校の子供たちは明るくて、活発な子だなと思いました。また、たくさんの子供たちが手を引っ張って、「遊ぼう！」って言うてくれてとてもかわいかったです。
- ・ 最終日にいろいろな学年の子供たちに「また来てね」「来年くる？」「ありがとう」と言われて優しい子供たちだなと思いました。同時に寂しくなりました。
- ・ 1年生の子供が引き算カードを使って一生懸命勉強しているのを見て、すごく可愛いなと思いました。とても頑張る気持ちをもらいました。
- ・ プールで泳げない子供がだんだん泳げるようになっていく様子を見て、とても感動してうれしかったです。これからもできないことが1つでもできるように頑張ってください。

